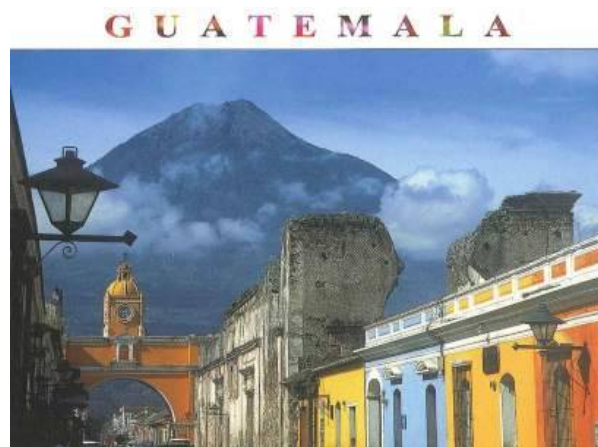


第2の故郷・中米へのDXバケーション(その2)

25年ぶりの中米旅行の1か国目はエルサルバドル。そして2か国目のグアテマラは正に私の第2の故郷と思っている初の海外旅行&初の海外駐在の国です。グアテマラは1986年から2年間の滞在期間のうち前回書いたとおり1989年に半年余りTG9ASAでQRVしていました。

中米グアテマラは北緯14度にあり熱帯ですが首都グアテマラ市(Ciudad de Guatemala)は海拔約1400mにあり室内はいつも20℃で気温の上下もなく「常春の国」と自ら命名している。一方、太平洋岸、カリブ海岸は0mで毎日が夏の陽気で様々な熱帯の動植物が楽しめます。



古都アンティグア(Antigua)から見たグアテマラ富士と呼ばれるボルカン・デ・アグア(Volcan de Agua)



死者の日に行われる凧揚げ



現地の衣装を纏った人形



古都アンティグアの教会

25年前にグアテマラに2年間仕事で滞在し、その間にTG9ASAで運用していた。その後四半世紀経ってグアテマラはどのように変わっているのかも見たくなり今回の訪問地にグアテマラを加え、ここでも再度ハムの運用を計画に加えることにした。9月13日エルサルバドルに入り、JA6WFM中村さんの家に一旦立ち寄ったあとグアテマラに移動することとなった。エルサルバドルとグアテマラの距離は飛行機に乗る程でもない(実際フライトはあります)。そこで今回の移動は国際ハイウェイバスを選択してみました。パナマからメキシコは「パンアメリカンハイウエー」という道路が通っている。この道路を通過して約5時間でグアテマラに行くことができます。

国際ハイウェイバスには1等と2等の2つのクラスの座席があり1等では新幹線のグリーン車以上のサービスが受けられます。車内からはWiFi経由でインターネットに接続できる無料サービスがあり今回持参したSIM FreeのスマホをWiFiモードに切り替えネットサーフィンしながらの移動でした。往路、復路共に早朝便であったため車内では朝食のサービスがあり、途中はコーヒーやジュース、クッキーのサービス付きという快適な2国間の移動ができました。この快適なファーストクラスのバスの旅が往復で約90ドルです。



エルサルバドル〜グアテマラ間の国際バス



首都グアテマラ市内



グアテマラコーヒーの実

ライセンスの取得は中米に出発する直前の8月から開始しました。通常のライセンスは日本のライセンスを基に通信総局(Dirección General de Telecomunicaciones)へ申請することで取得することができます(TG9ASAはこの方法で取得)。しかしこの方法では取得までに長期間が要するのと大使館からの推薦状が必要になってきます。そこで今回はFCC(米国)のライセンスに基づいた相互運用協定による運用許可を得ることとしました。この運用許可はグアテマラアマチュア無線連盟(CRAG:Club de Radio Aficionado de Guatemala)に申請することで取得できます。以前取得したAB0FUのライセンスを基にグアテマラではアクティブなTG9AJR、Juanの協力を得てライセンスを取得した。取得のための書類はエルサルバドルと同様で下記の書類を準備してTG9AJRに送って手続きを依頼した。

- ①USA(FCC)ライセンスのコピー(AB0FU)
- ②日本のライセンスの英文証明(JA2SWH)
- ③パスポートのコピー

なぜ彼に手続きをお願いしたか。渡航前に彼とQSOしている訳ではなかった。JA6WFM中村さんの紹介でメールをやり取りするようになった。連絡を取り合っているうちに「お前は14区のLas Conchasというコンドミニアムに住んでいたろ」と私の25年前の住居を言い当てた。えっ、なぜ知っているの?と考えているうちに彼は私と同じ日にCRAGへ入会していたことを思い出した。CRAGに入会するにはクラブの月例会で役員の承認を得たうえで、参加者全員が集う中、会長に向かってアマチュアの趣旨に則り運用を行うことを宣誓しなければならない。その日は入会者が私ともう1人いた。2人横に並んで宣誓するがグアテマラ人の入会者はスラスラ宣誓している。それがJuanだった。なんと25年ぶりの予期せぬ再会だった。



TG9/AB0FUを運用中



TG9AJR/JuanとXYL



ローカルハムとコーヒーブレイク

彼の尽力により私のFCCライセンスに基づくTG9/AB0FUの運用許可を得ることができた。運用についても彼は自分のシャックを私に使わせてくれた。首都グアテマラシティから20km余りエルサルバドル寄りのFraijanesという町に彼の家があり、2階の書斎がシャックになっていた。彼のRigはK3+靴。日本ではリニアアンプを「下駄」と呼ぶことがあるが、グアテマラでは「靴」(Zapatos)と呼んでいる。アンテナはダイポールとツェップアンテナを使用している。近隣との摩擦を避けるため地上高も低いワイヤーアンテナだったが良く飛んでいる。Fraijanesは海拔2,000m程度に位置し、太平洋側が開けていることが良く飛んでいる要因だと思う。ここからは10, 14, 18, 21MHzを運用した1本のダイポールアンテナにチューナでマッチングを取りながらの運用だった。しかしこんなアンテナでも日本、USAからパイルアップになり1晩で200局とのQSOだった。

翌日は近くのスターバックスでローカルハムとコーヒブレイクをしながらハムの話で盛り上がった。共通の趣味をもつことは素晴らしい。初対面のグアテマラのハム達と1時間余り歓談することができた。もちろんスペイン語でのラグチュウです。



最後にグアテマラの食べ物についてご紹介します。今回の旅でどうしても食べたかったものが下の写真にある郷土料理(Comida Chapina)です。グアテマラの主食はパンでもライスでもなくトウモロコシの粉を丸く焼いた「トルティージャ」(Tortilla)です。素朴な味のいわば現地のパンのようなものです。そしてここに乗せて食べるとビールのツマミにぴったりの「ワカモル」というアボガドと玉ねぎを調理したものです。そしてメインはビフテキ。バカ(Vaca:牛の意味)の肉をトレスクアルトス(3/4)に炭火で焼いてもらいます。ミディアムとウエルダンの中間が3/4です。肉の芯だけがピンク色になる程度の焼き具合にしてもらい香辛料入りトマトソースやチリソースをかけて食べるのは最高です。グアテマラでは豚肉より牛肉の方が安いです。このようなディッシュに添えてあるのが「焼きバナナ」です。日本で食すバナナとちょっと品種は違って焼かないと食べられないくらい堅いバナナです。焼くと甘さが引き立ちチリソースでピリピリした口の中を癒してくれます。これらを25年ぶりに食べて涙が出るほど嬉しかったです。そして飲物は「ロサデハマйка」(Rosa de Jamaika)という酸っぱい天然のジュースです。



レストランで懐かしいグアテマラの味を楽しんだ(約1500円)



昼食に食べたタコス(約200円)